

新な燈火

(昭和五十二年寮歌)

石川徹君 作歌
元辻毅君 作曲

一

北国の荒ぶ吹雪に
榆の木の高く聳える
原始林の中果てる事なく
雄々しくて人の臉に
何時迄も鮮やかに刻む
其の姿を恵迪寮は

二

憂愁と理想を胸に
爽やかに寮友は去り行く
夜を徹し未来の事を
御互に語った部屋に
思出の言葉を残し
懐かしい恵迪寮を

三

年月に傾く姿
痛ましく懐いの残る
部屋の壁崩れ落ちて
昔から点る燈火
今はもう細くなり行く
我々の恵迪寮の

四

先人の残した燈火
心有る寮友よ絶やさず
思い見て新な燈火
今こそ探し求めて
点そう絶やす事なく
何時迄も恵迪寮に